



暑中お見舞い
申し上げます

税務と経営

編集 発行人
税理士

三木 泰

事務所 〒597-0071
貝塚市加神1-11-17
TEL 072(431)1644

8月

(葉月) AUGUST

日	・	12	26
月	・	13	27
火	・	14	28
水	1	15	29
木	2	16	30
金	3	17	31
土	4	18	・
日	5	19	・
月	6	20	・
火	7	21	・
水	8	22	・
木	9	23	・
金	10	24	・
土	11	25	・

8月の税務と労務

- | | |
|---|--|
| 国 税 ／7月分源泉所得税の納付
8月10日 | 国 税 ／個人事業者の消費税等の中間申告
8月31日 |
| 国 税 ／6月決算法人の確定申告
(法人税・消費税等) 8月31日 | 地方税 ／個人事業税第1期分の納付
都道府県の条例で定める日 |
| 国 税 ／12月決算法人の中間申告
8月31日 | 地方税 ／個人住民税第2期分の納付
市町村の条例で定める日 |
| 国 税 ／9月、12月、3月決算法人
の消費税等の中間申告
(年3回の場合) 8月31日 | |

ワンポイント インターネット公売

滞納した税金の徴収に充てるため、税務署が滞納者から差し押さえた財産を、インターネットを利用(平成24年度は、楽天が運営する官公庁オークションを利用)して売却する制度で、入札により競り合います。土地や住宅、高級車等の他、大分県別府市の温泉旅館など変わった物件も出品されています。

高機能肌着

近年、消臭機能や発熱効果をうたうものなど、さまざまな高機能肌着が商品化されています。

秋冬用の肌着には、繊維の持つ、水蒸気を吸収する際に熱を発する「吸湿発熱性」という性質が効果的に利用されています。これは、空気中で動いている水の分子が繊維とくっつき安定することで、運動エネルギーが熱エネルギーに変わるために起こります。この吸湿発熱性は繊維によって異なり、化学繊維のアクリレート系が最も高い吸湿発熱性を持っています。天然繊維では、毛や麻、絹などが比較的高い吸湿発熱性を持っています。また、織り方にも工夫がされています。断熱性が最も高い素材である空気を繊維内にとどまらせるように、細い繊維を数本寄せ集めて、中心に空洞を作っています。

逆に春夏用の高機能肌着としては、着心

地が良く消臭機能を持たせた肌着が販売されています。さらに、UVカット機能や汗取りパットが搭載されたものもあります。

高機能肌着には、運動時の疲労を軽減したり、動きをスムーズにしたりするものもあります。この肌着は、特殊な繊維を使い、関節や筋肉の部位によって網目の細かさなどを変えるなどして、伸縮機能を持たせています。この肌着を運動時に着用することで、筋肉のブレが防止できたり、関節や筋肉をより大きく動かせたりできるようになります。また、血行を良くするといった効果も期待できるようです。

さらに高機能肌着の中には、ダイエットや冷え症、むくみに悩む女性や、夏場に「汗も冷房による冷えも防ぎたい」という女性の声から開発されたものが多くあります。また、女性向けに毛玉や静電気防止機能が付加された肌着も開発されており、高機能肌着の市場は、まだまだ注目されそうです。

消えるインキ

一定の温度になると色が消えたり復活したりするインキがあります。このインキは、「メタモカラー」と呼ばれ、現在ではさまざま商品に応用されています。

温度変化によって色が変わるインキは、1975年に初めて開発されました。当初、メタモカラーは変色する際の温度幅が数度しかなく、実用的ではありませんでした。その後、温度幅を広くするための研究開発が進められ、今では85℃程度の温度幅で変色するインキが開発されています。現在、広く市販されている「消える筆記具」は、65℃で色が消え-20℃で色が元に戻るインキが使われています。

現在このインキは、冷たい飲み物を注ぐと絵柄が変わるグラスや、「飲み頃」の温度になると文字が浮かび上がるお酒のラベルなどに用いられています。変色の温度幅がさらに広がると、さらに多くの場面でこのインキが使用されるようになるでしょう。

メタボ検診

メタボ検診の義務化から四年余りが経ち、メタボという言葉はあまり聞かれなくなりました。しかし、メタボリック症候群は内臓脂肪型肥満で、なおかつ、高血糖や高脂血症、高血圧などの生活習慣病が重なった状態のことを指し、脳卒中や心臓病につながる危険な状態といえます。メタボ検診については、非効率であるとか、自営業や中小

企業に勤める人の家族はほとんど検診を受けていないといった指摘が挙がっています。検診が義務化されたとはいえ、未受診者自身に対する罰則がないので、受診率が伸び悩んでいます。メタボリック症候群の判定はかなり厳しく、男女合わせて約二千万人はメタボリック症候群、またはその予備軍といわれています。国は平成二十四年度までに、メタボ診断者を一〇%削減することを目標としています。

近年、さまざまな気象災害が起きたり、記録的な猛暑になったりと、極端な気象現象が起っています。

集中豪雨や竜巻などは、暖気と寒気が接するような条件で発生しやすく、地形などの要因が大きな影響を与えるので、局地的に発生しやすくなります。

一方、猛暑日が何日も続くといった異常気象の直接の原因として、エルニーニョ現象やダイポールモード現象など、さまざまな要因が挙げられます。また、これらの要因が相互に関連して異常気象が発生することも多くみられます。

エルニーニョ現象

南米ペルーやエクアドル沖合の東太平洋赤道付近で、約1,000kmの広がりをもって海面温度が異常に高くなる現象を、「エルニーニョ現象」といいます。

もともとこの海域では、毎年クリスマスのころから一時的に温度が高く、塩分が少ない海水が現れます。しかし数年に一度、この現象が6か月から1年程度続くことがあり、この現象をエルニーニョ現象といいます。反対に、この海域の海面温度が異常に低くなる現象を「ラニーニャ現象」といいます。

エルニーニョ現象が発生しているときは、この海域で東から西に向かって吹いている貿易風が弱まります。すると、地球全体の大気循環に影響を及ぼし、世界各地に異常気象をもたらすよ

最近の異常気象



うになります。ラニーニャ現象のときには、エルニーニョ現象とは逆の現象が発生します。

南米から遠く離れた日本でも、エルニーニョ現象やラニーニャ現象の影響を受けます。エルニーニョ現象の場合には、冷夏・暖冬の傾向が強くなります。ラニーニャ現象の場合は、逆の傾向になります。

このように、ある地域の異常気象が遠く離れた地域の気象に影響を与えることを、テレコネクションといいます。

ダイポールモード現象

エルニーニョ現象やラニーニャ現象と同様の現象が、インド洋にも発生します。この現象は、1999年に東京大学理学部の山形俊男氏らによって明らかにされました。インド洋南東部では海面温度が通常より低く、一方の西部では通常よりも

高くなっており、海面温度が二極構造になっていることから、このような名前が付けられています。

ダイポールモード現象は、10月ごろにピークを迎え、11月後半から12月ごろになると急速に消滅します。この現象は、インドネシアやオーストラリアなどに干ばつをもたらすことがわかっており、2009年に発生したオーストラリア南東部の山火事は、3年続いたダイポールモード現象が影響したといわれています。また、地中海沿岸諸国や東アジアには猛暑をもたらすといわれています。

ヒートアイランド現象

都市部の気温がその周辺区域に比べて高くなる現象を、ヒートアイランド現象といいます。気温分布図を描くと、都市部を中心に島状になることから、この名前が付けられています。

ヒートアイランド現象は、コンクリートやアスファルト舗装による熱吸収量の増加や、樹木の減少による土中の水分量の減少、人やモノなどが密集したことによる排熱の増加などが原因とされています。

ヒートアイランド現象への対策としては、地上や屋上の緑化、保水性や遮熱性の高い舗装を採用することが考えられます。また、個人単位では、エアコンの温度調節や、公共交通機関の利用などによって、消費エネルギーを抑制することが、効果的です。

4年に1度のオリンピック



1896 1900 1904 1908 1912 1916 1920 1924 1928 1932 1936 1940 1944 1948 1952 1956 1960 1964 1968 1972 1976 1980 1984 1988 1992 2000 2004 2008 2012

2012年、今年は夏季オリンピックの年です。競技に関しては、さまざまなメディアで取り上げられているとおりですが、ここでは別の視点からオリンピックを見てみようと思います。

オリンピックの歴史

古代オリンピックである「オリンピアの祭典」は、紀元前9世紀ごろに古代ギリシャで行われました。古代オリンピックは、ギリシャ神話に登場するゼウスなどの多くの神を崇める宗教行事で、最初に行われた競技は、約190mのコースを走る「競走」でした。その後、中距離競走や長距離走、レスリングなどの競技が行われました。古代オリンピックは、約1200年続いたようです。

近代オリンピックは、1892年にフランスのクーベルタン男爵によって提唱されました。そして4年後の1896年に、古代オリンピック発祥の地であるギリシャのアテネで第1回大会が開催されました。

オリンピック憲章

オリンピックについて一番基本的な決まりについては「オリンピック憲章」に書かれています。オリンピックに参加する人やオリンピックの精神や理念を広

める活動をするためには、このオリンピック憲章を理解する必要があります。最初にオリンピック憲章が定められたのは、1908年でした。それから100年の時を経て何度も改訂されて、現在の形になっています。

五輪のマーク

オリンピックのシンボルといえば五輪のマークです。このマークは5色の輪でできていますが、どの色の輪がどの位置にくるのかについても、オリンピック憲章で決められています。

このシンボルは、5大陸の団結と、オリンピック競技大会が世界中から選手が集って技を競い合い、友好を深める大会であることを表現しています。五輪のマークは、クーベルタンによって考案されたものです。青・黄・黒・緑・赤の色は、旗の地色の白を加えると、世界の国旗のほとんどを描くことができるという理由で選ばれました。

JOCの活動

スポーツなどを通じて世界の平和維持と国際友好親善などに寄与することを目的とした団体が、日本オリンピック委員会(JOC)です。JOCでは、オリンピック競技大会とそれに準ずる国際総合競技大会へ選手を派遣

する事業と、オリンピックの精神や理念を広める運動であるオリンピックムーブメントの推進や選手の育成・強化を目的とした事業をしています。このような事業活動を展開するためには、資金や専門的なノウハウが必要です。そこで、JOCマーケティング活動として、企業から資金やノウハウの提供を受け、その代わりにJOCマークや公式呼称、選手の肖像などJOCが所有する知的財産の使用を、協賛企業に認めています。

幻となった日本開催

日本で最初に開催されたのは、1964年の東京オリンピックですが、その28年前には、すでにオリンピック招致を成功させていました。それが「幻の東京オリンピック」と呼ばれる1940年の東京オリンピックです。この招致を成功に導いたのが、柔道の父と呼ばれる嘉納治五郎です。

嘉納は1909年にIOC(国際オリンピック委員会)委員に就任しました。それから3年後には日本選手をオリンピックに参加させるなど、オリンピックムーブメントに積極的に関わっていきました。1936年に東京オリンピック開催が決まった時には、既にコンパクトな大会という構想を持っていたそうです。